

文化財学習会

ふるさと探訪

テーマ 讃岐国府跡と香川県埋蔵文化財センターを
訪ねる

講師 益崎 卓己（香川県埋蔵文化財センター）

日時 令和8年7月21日（火）

共催

高松市文化財保護協会

高松市教育委員会

し せ き さ ぬ き こ く ふ あ と 史跡 讃岐国府跡

香川県埋蔵文化財センター

はじめに

香川県埋蔵文化財センターは、平成 21 年度から讃岐国府跡探索事業に取り組み、これまで所在地が特定されていなかった讃岐国府跡が坂出市府中町にあることを

特に平成 23 年度からは、開法寺東方地区（古代寺院開法寺の東側のエリア）について重点的に発掘調査を行なった結果、国府の主要施設を発見し、その実態を明らかにしてきました

讃岐国府跡は香川県のみならず、日本の古代の歴史を明らかにする上でも重要な遺跡であることから、令和2年3月に国の史跡に指定されました。



空から見た讃岐国府跡（南から） 赤線内が史跡の範囲

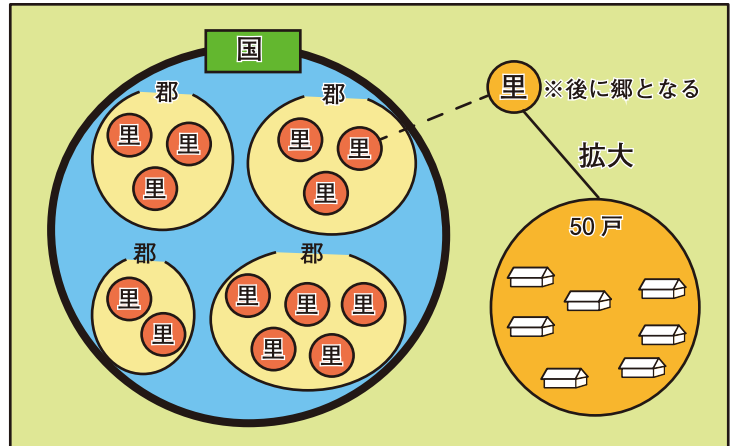
国府が置かれた時代

大宝元(701)年の大宝律令^{たいほうりつりょう}の制定後、朝廷は各国に国司を派遣し、地方政治の拠点である国府を本格的に整備します。国司は、各国の郡司たちを指揮し地方政治を担っていました。国府の中心である政庁^{こくちょう}(国庁)では行政の実務、各種行事や祭祀が執り行われました。政庁を中心とし、そのほかの施設、必要物資をつくる工房や軍事のための兵舎等、様々な機能をもつ施設が集まった範囲が国府と呼ばれました。

五畿	畿内・ 5国
	東山道・ 8国
	北陸道・ 7国
	東海道・ 15国
七道	山陽道・ 8国
	山陰道・ 8国
	南海道・ 6国 (讃岐国含む)
	西海道・ 11国

古代の五畿七道と国の数

古代には現在の都道府県より多くの国が、各地に置かれていました。南海道(現在の四国と淡路島、和歌山県)で所在地が明らかなのは、讃岐国府のみです



古代の国の構造模式図

国の下には郡、その中には複数の里(後に郷となる)があり、里は原則 50 戸(戸はおおよそ一家族)で構成されていました

讃岐国府を求めて

讃岐国府は、江戸時代の『讃岐国名勝図会』^{さぬき きのくにめいしゅう す え}において所在地についての研究が始まります。

その後、大正時代から地名を中心とした研究が行われました。その成果が岡田唯吉^{おか た だきち}によって示された「国廳史蹟地圖」や、国庁推定地に建てられた讃岐国庁址碑です。



大正時代の讃岐国府跡の推定図



讃岐国庁址碑

岡田唯吉 1942「讃岐国府遺蹟考」『鎌田共済会叢書第四輯』
鎌田共済会調査部 に再録のものを引用

大正11(1922)年に建てられた石碑が現在も現地に残る

かいほう じとうほうちく 讚岐国府跡（開法寺東方地区）の調査成果

讚岐国府跡の広がり、現在は約 27 万㎡におよびますが、さらに広がると考えられます。

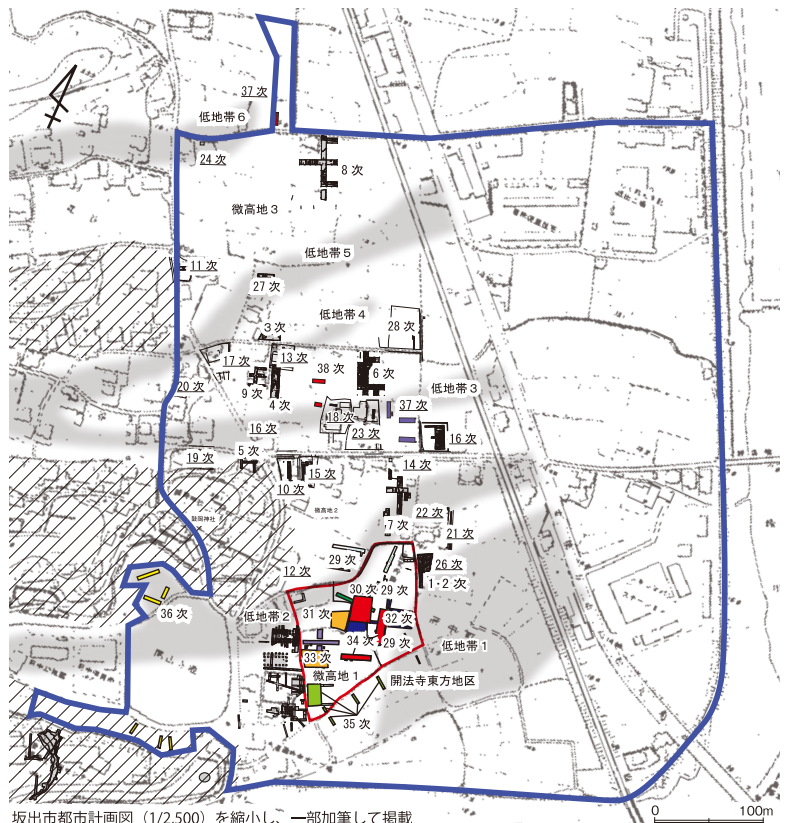
開法寺東方地区は、その中でも南端の微高地上に当たり、国史跡となっています。讚岐国府跡には、この他にも施設の存在が推定される個所がありますが、瓦や施釉陶器が集中する開法寺東方地区に狙いを定め、平成 23 ～ 29 年度の期間で発掘調査を行いました。

調査の結果、開法寺東方地区では次の5つのことがわかりました。



開法寺東方地区
の南側の崖

綾川の氾濫によって削られた崖が残っています



坂出市都市計画図（1/2,500）を縮小し、一部加筆して掲載

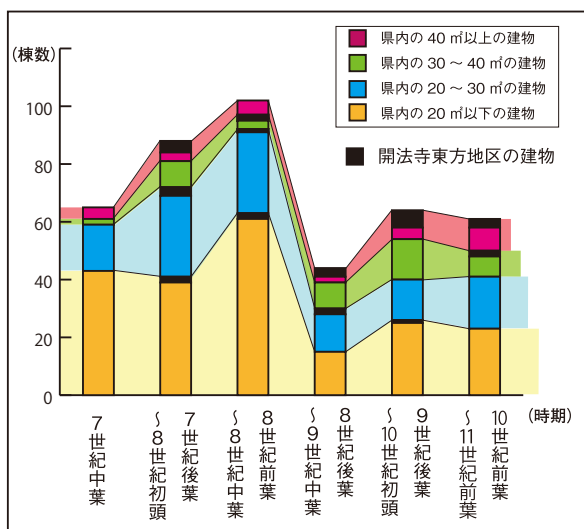
讚岐国府跡の範囲と開法寺東方地区

青線内が現在の讚岐国府跡の範囲、赤線内が開法寺東方地区

1 讚岐国内で最大級の規模を誇る建物群

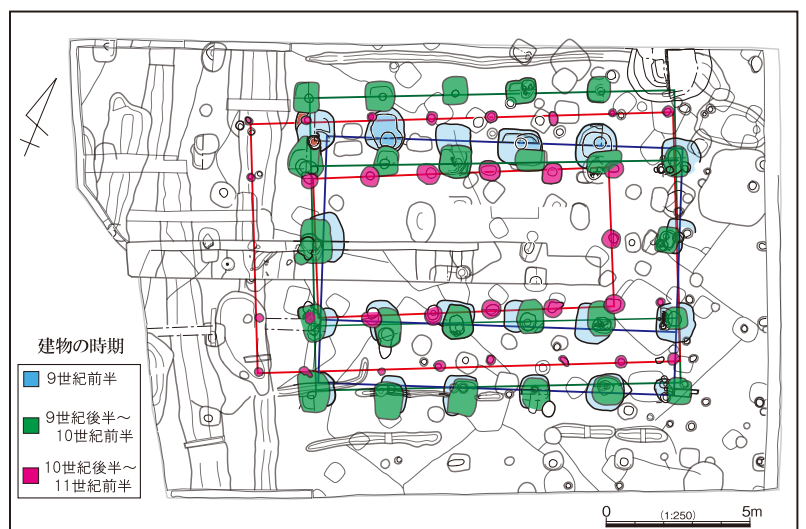
開法寺東方地区では、7世紀中葉～11世紀までの建物が見つかっています。それらはいずれも県内でも有数の規模を持ちますが、最も大きいものは面積約80㎡で、古代の讚岐国内の建物の中でも最大級のものです。

また、外側に廂（ひさし）をもつ建物も多く、建物の格式の高さを物語ります。



香川県内の面積別の建物数

開法寺東方地区の建物では、全時期にわたり県内で最大規模の建物が存在することがわかります



讚岐国府跡で最大規模の建物跡

着色個所が時期ごとの建物を構成する柱跡です。巨大な建物が少なくとも3時期にわたり、同じ場所に建てられています

2 計画的な配置の建物群

建物の計画的な配置・持続性も注目すべきことです。開法寺東方地区では、一辺約100mの範囲に、8世紀～11世紀（奈良時代～平安時代末）の数百年にわたり建物が建てられ続けます。これらは、建物の端や向きをそろえるなどの規格性が認められ、その規格は、離れた位置の建物にまで及びます。建物に囲まれた中央の部分が、施設の無い広場のようになることも他の国府に多くみられる特徴です。

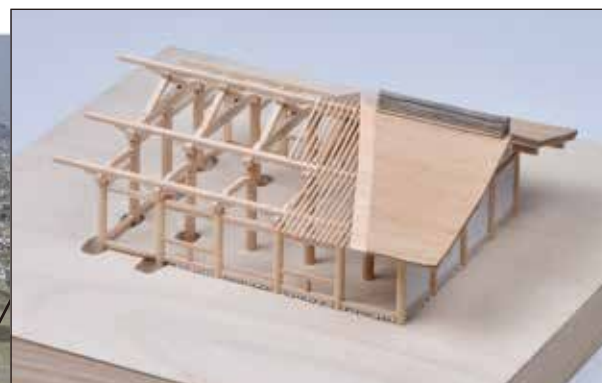
さらに、西側に隣接する開法寺との境界や開法寺東方地区の北側には、堀・溝といった区画のための施設が設けられています。



建物群を取り囲む一本柱堀跡

溝と、人物の横にある柱跡によって構成される堀がみつかりました（着色箇所）

9世紀～10世紀の建物配置



最大規模の建物の模型

制作・撮影：香川県立ミュージアム 協力：清水 真一氏（徳島文理大学）

開法寺東方地区（推定）

9世紀～10世紀の建物配置の想定図

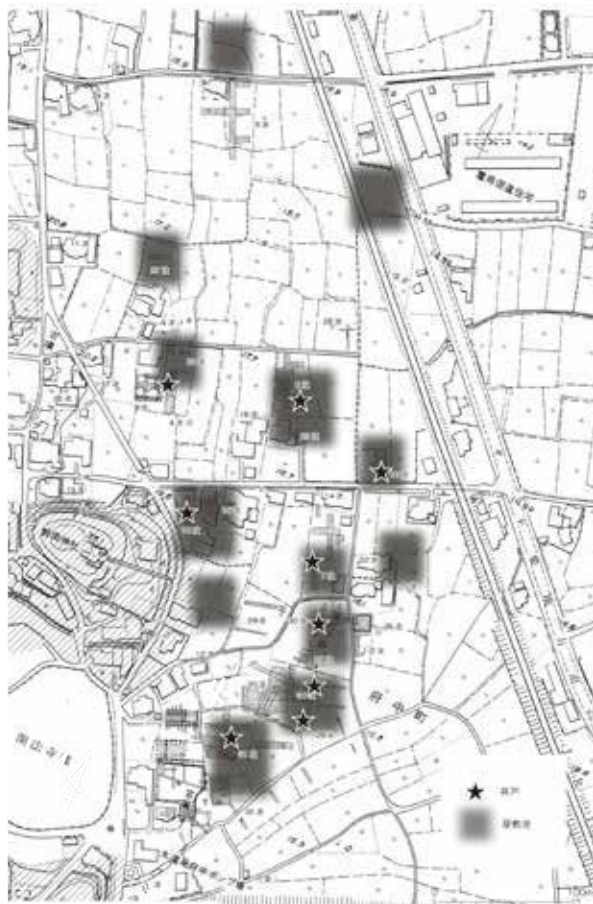
3 国府の姿の変質

国司は都から派遣されていましたが、平安時代の頃には任国へ行かない国司(遙任国司^{よう にん})の例が増え、地元の有力者(在庁官人^{ざいちよう かんじん})が国司の代わりに実際の仕事を行うことが多く見られます。そして国司が不在の状態の国府は留守所^{る すどころ}と呼ばれます。

讃岐国府跡の調査では、古代の終わりから中世前半の遺構も多く見つっています。これらを整理すると、井戸をもった一辺約 50mの屋敷地が、開法寺東方地区とその北方に集まっている景観が復元できました。

これらの屋敷地の集まりは、地元の有力者を中心として地方が経営されていた留守所の実態を表すものとして、注目される成果です。

また、同時期の香川県内の遺跡にはほとんどみられない灯明具^{とうみょうぐ}(明かりを灯す道具)や、中国から輸入された陶磁器が多量に出土することは、一般集落と大きく異なり、当時の在庁官人たちの活動の一つの側面を表しています。



坂出市都市計画図(1/2,500)を一部改変して掲載

屋敷地の想定配置

複数の屋敷地(着色部分)が近接して所在しており、多くはそれぞれの屋敷地に井戸(★)をもっている

4 国府が置かれる前の姿

国府は 701 年の大宝律令制定以降に、本格的に整備されることが多いですが、開法寺東方地区では、それより古い時期の建物も多く見つかりました。これらは、8世紀以降の建物跡の主軸が今の地割(条里型地割)に近い方向を向くのに対し、主軸が南北方向を向いています。

南北方向の主軸をもつ建物跡も規格的に配置され、それらを区画する施設も確認されています。国府が整備される以前にも、この地には重要な施設が存在したと考えられます。

南北方向の大型建物跡と城山(東から撮影)

城山の築かれていた時期の建物主軸は、すべて南北方向を向いています。後の8世紀以降には、現在の地割に建物が揃えられるようになることから、その間には大きい土地区画の再編成があったことになります

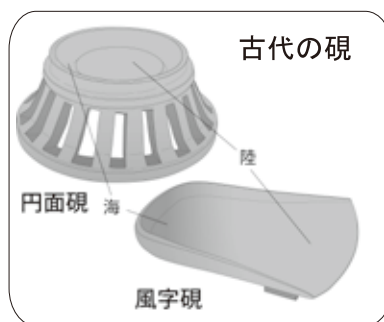


5 特徴的な出土品

古代の役所跡からは、一般の集落跡でほとんど見られない遺物が多く出土します。開法寺東方地区の調査では、役人が使用した硯^{すずり}や着物の帯飾りが見つっています。

また、当時の高級食器である緑釉陶器^{りよくゆうとうき}や灰釉陶器^{かいゆうとうき}、三彩陶器^{さんさいとうき}などの釉薬^{ゆうやく}をかけた器や、建物に使用された多量の瓦など、当時の一般集落とはかけ離れた質・量の遺物が出土しています。

このような出土品からも、当時の国府の姿を復元することができます。



讃岐国府跡出土の硯（左）と復元図（右）

《硯^{すずり}》

古代の硯は、主に焼き物です。讃岐国府跡の発掘調査での出土量は、県内の他遺跡の出土量をはるかに凌駕しており、日常的に文字が使用されたことがわかります

《三彩陶器》

3種類の釉をかけた器です。
香川県内では、このほか坂出市大浦浜遺跡で出土が知られるのみです



讃岐国府跡出土の三彩陶器（右）と復元図（左）



《金銅製龍頭^{こんどうせいりゅうとう}》

金銅製（銅に金貼り）の龍を模した全長約5 cm の製品です。正確な用途は不明ですが、龍の首の根元やくわえている玉にある穴に、棒などを通して使用していたようです。

国内では、福岡県沖ノ島の出土品に龍の頭を模した製品がありますが、国府跡での出土は知られていません。

府国岐讃探索マップ

0m 100m

おじさん
ここで暮らしてたの？

西山神社

城山神社

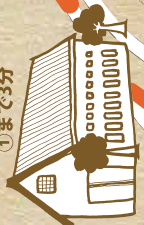
奈良・平安時代は
このあたりが讃岐
の中心だったんだ

わしもここで
知事として働いて
おったんじゃ
菅原道真



ここから
スタート！

⑩ 香川県埋蔵
文化財センター
①まで3分



令和3年度未だ、
歩行者・自転車しか
通れません(予定)

① 開法寺塔跡
②まで2分



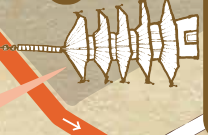
堤防の下のを
進みます

② 小さな崖
③まで4分

左(北西側)に見える
段差が小さな崖です

春は桜並木が
きれいです

④ 史跡の範囲
⑤まで4分



③ 讃岐国庁跡碑
④まで1分

平成23~29年度の調査
で、国府の重要な施設の
実態が明らかとなり、
国の史跡となりました

踏切を渡って

あぜ道が続きます
国府と港をつなぐ
メインストリート？

「セイドウ」の
説明版

⑥ 国府印鑑
明神遺跡碑
⑦まで20分

この近くでは
平成22年度調査で
道の跡が見つかりました

ここも南海道の候補！

ここに立つと
右手(西側)に城山が
よく見えます。菅原道真は
城山で雨乞いをしたと
伝えられています

⑧ 南海道推定
⑨まで2分

見晴らし最高！
国府のまわりが
見渡せます

⑦ 新宮古墳
⑩まで2分



JR 讃岐府中駅

信号

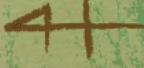
高松→

高架をくぐります

石山八幡神社

香川大学
教育学部
附属特別
支援学校

綾川

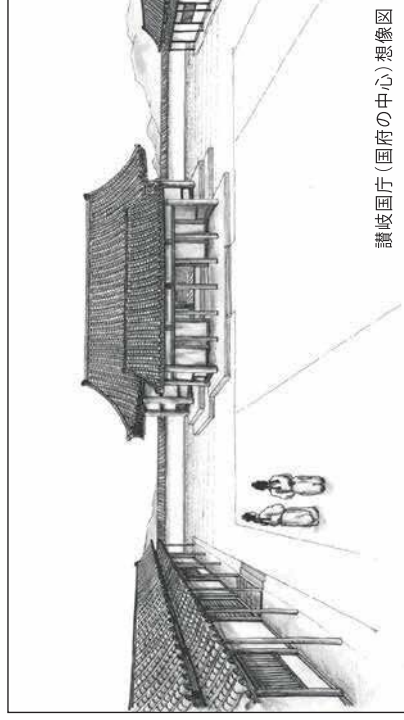


讃岐国府とは

国府とは、奈良時代ころ全国の国ごとに置かれた役所のことと、現在の都道府県庁のような施設のことです。香川県は、おおむね当時の讃岐国にあたり、国府は讃岐国府と呼ばれています。讃岐国府は南海道なんかいどう（古代の官道）や瀬戸内海に近い現在の坂出市府中町さかいでにつくられました。

国府では中央政府から派遣された役人が国司こくしとして政治を行っていました。国司とは現在の知事のような立場の人です。讃岐国の国司には学問の神様として有名な菅原道真も名を連ねています。

平安時代の終わりがちから各地の国府は縮小し、やがて廃れていきました。このため、讃岐国府のあった場所も忘れられてしまいましたが、平成 23 ～ 29 年度に行った調査により、国府の施設を発見することができ、讃岐国府の場所が特定され、令和 2 年には国の史跡に指定されました。



讃岐国庁（国府の中心）想像図
越智広二氏作画

発行／香川県埋蔵文化財センター
〒762-0024 香川県坂出市府中町南谷 5001-4
TEL 0877-48-2191 FAX 0877-48-3249
URL <https://www.pref.kagawa.lg.jp/maibun/>



県指定史跡

① 開法寺塔跡

塔の柱を支えていた 17 個の礎石が残っています。菅原道真の漢詩集には、開法寺が国府の役所の西にある、と記されています。このため、開法寺は讃岐国府の場所を探す手がかりとして重要と考えられてきました。



② 小さな崖

綾川に沿って小さな崖があります。現在の堤防が築かれるまで崖の下は綾川の増水によって水没する場所でした。発掘調査から崖の下は、中世には農地として使われ、古代の終わり頃には、崖となっていたと考えられます。



③ 讃岐国庁跡碑

1925 年（大正 14）、讃岐国府の中心地と推定された場所に建てられた碑です。当時は主に地名による研究が行われ、讃岐国府の場所が推定されました。碑の漢詩は著名な漢学者・牧野謙次郎によるものです。



④ 史跡の範囲

讃岐国府跡探索事業（H23～29）によって、国府の重要な施設の内容が明らかとなり、令和 2 年に国の史跡に指定されました。史跡となった範囲では、古代の建物などの多くの重要な遺構が見つかっています。



⑤ 鼓岡神社

保元の乱（1156 年）で敗れ讃岐へ配流された崇徳上皇が、この地に設けられた木の丸殿で、崩御までの 6 年余りの間を過ごしたとされています。



⑥ 国府印鑑 明神遺跡碑

印鑑とは印（判）と鍵のことで、いずれも国府を運営・管理するのに必要なものです。1916 年（大正 5）、漢学者・赤松景福らによって印鑑にちなむ地名がある場所に建てられました。



⑦ 新宮古墳

古墳時代終わりごろに築かれた、横穴式石室をもつ方墳。石室の入口からは綾川下流域の平野から瀬戸内海までを見渡すことができます。それらは古墳に葬られた人の権力基盤の範囲を示しているのかもしれない。



⑧ 南海道推定地

奈良時代ころ、都と各地を結ぶ道路（官道）がつくられました。地方での官道の幅は 9 ～ 12m と言われています。国府の多くは官道の近くにあり、讃岐国でも国府の近くを南海道と呼ばれる官道が通っていました。

